

小規模ホテルで誘客狙う

ワイン醸造所などを運営する欧州ぶどう栽培研究所(新潟市)は、観光誘客を強化する。11月に同市西蒲区のワイナリー「カーブドッチ」の敷地内に全10室の小規模ホテルを開業し、既存の宿泊施設と合わせ2棟体制にする。新ホテルは地元産ワインと料理を楽しめるフランスの宿泊施設の運営手法を取り入れ、県内外からの来訪者拡大を目指す。

ワイナリー「カーブドッチ」

欧州風高級感出す

11月に開業するホテルの名称は「トラヴィーニユ」で、木造の2階建て、延べ床面積887平方メートル。投資額は4億円程度を見込む。既に着工しており、今後は予約システムなどを整備する。6月には先行予約の受け付けを始める予定だ。

客室の面積は1室あたり40平方メートル程度。宿泊代は2食付きで、1人1泊3万円弱、4万円を見込む。フランスから調達した家具などを設置する予定で「他の宿泊施設にはない空間を作る」(今井卓社長)考えだ。

11月開業、宿泊2棟体制に

ロビーには暖炉を備える予定で、フロントデスクは設けない。カーブドッチの敷地や周辺には、ぶどう畑や野山が広がる。ロビーで従業員が接客し、宿泊客が自然を眺めてくつろげる空間づくりを目指す。

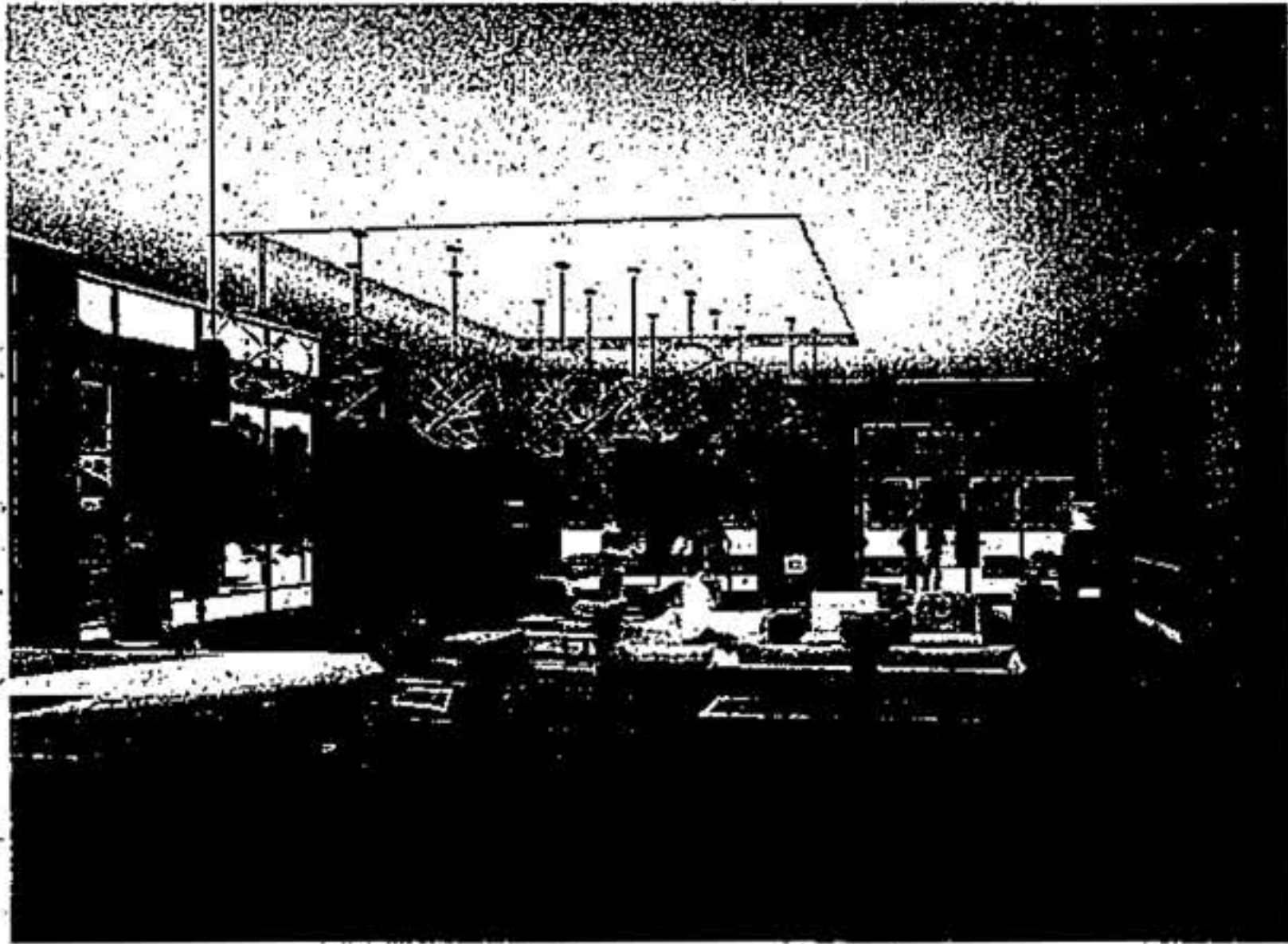
同社は2009年に客室7室と日帰り入浴もできる温浴施設を備えた「ヴィネスパ」も開業しており、年間約12万人が利用している。新しいホテルはレストランの食事とワインを楽しみながら滞在できるフランス発祥の宿泊施設「オーベルジュ」のコンセプトを取り

入れ、既存の宿泊施設との違いを強調。駐車場などもヴィネスパとは別に専用の施設を設けるなど、高級感を打ち出す。夕食ではフルコースの料理を提供する。朝食にはカーブドッチで作っているパンやコーヒー、地元産の農産物などを使用する予定だ。

新ホテルの開業に向けて、1月からはレストランの内装などを改修し始めており、2月下旬に終了する予定だ。

欧州ぶどう栽培研究所は1992年に設立。ワイン以外にパンやソーセージ、ビールなども製造をしており、西蒲区のワイナリー以外に新潟市内に5店舗を持つ。

2018年3月には東京・日比谷に飲食店を初出店したほか、同年4月には新潟駅からワイナリーまで無料のシャトルバス運行も始めた。新ホテル開業によって地元に加えて県外からの集客を増やす狙いだ。



広いロビーには暖炉を備える(写真上、イメージ)。ブドウ畑や周辺の自然の中へくつろぎたい

新潟

ソフトウェア成ネット(東京)4月に新たな新潟市に開設。県は他地域に(情報技術)が関が多く、必需確保しやすいとを決めた。あがネットにつか

星野

宿泊料金の変動

星野リゾート
 テル「BEB5」
 プ「軽井沢」を町に開業した。定・割引料金にとしては初の試み入れた。背景ズンに高くなる者をホテル利用しているという分析佳路代表に戦略
 35歳以下
 (2~3人) 1